

令和4年第14回教育委員会会議

1 日 時

令和4年10月21日(金)

開会 10時

閉会 10時47分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

中山隆志教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、太田大樹庶務課長、岡橋勇侍教職員課長、北島公之学校指導課長、岩木智子生涯学習課長、辻江冬樹文化財課長、居村吉記保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第23号 令和4年度石川県優秀教職員の決定について（原案可決）

議案第24号 教職員の人事について（原案可決）

6 報告事項

報告第1号 令和5年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について

報告第2号 教職員勤務時間調査の集計結果（上半期（令和4年4月～9月）分）
について

報告第3号 いしかわ産業教育フェア2022の概要について

報告第4号 令和4年度いしかわマスター教員の認定について

7 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第23号、議案第24号及び報告第4号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 令和5年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について（岡橋教職員課長説明）

資料2ページをご覧ください。はじめに、「1候補者数」にある教諭及び養護教諭についてですが、受験者総数989人の中から、採用候補者として315人を選考いたしました。最終的な競争倍率は、昨年度より0.3ポイント減の3.1倍となりました。採用候補者315人の内訳は、小学校が141人、中学校及び高等学校が132人、特別支援学校が32人、養護教諭が10人となっております。中・高等学校の教科別の状況等については、次ページをご覧ください。受験区分及び中・高等学校の教科別、特別支援学校の学部別等における、採用候補者の内訳や倍率の一覧でございます。表への記載はございませんが、今年度新たに創設した「大学から推薦を受けた小学校受験者を対象とした選考（区分V）」においては、石川県教育委員会が指定する県内大学から推薦を受けた受験者を対象として実施し、14人を採用候補者として選考しました。採用候補者における男女の割合につきましては、候補者315人のうち、男性の割合が47.9%、女性の割合が52.1%となっており、昨年度とほぼ同程度であります。また、採用候補者に占める新卒者の割合につきましては、54.6%となり、5割を超えました。

資料1ページにお戻りください。ページ中ほどの栄養教諭ですが、昨年より実施している栄養教諭の一般選考につきましては、受験者14人の中から2人を、現職の学校栄養職員から任用替えを行う、栄養教諭の特別選考につきましては、受験者6人の中から2人を選考しました。「2結果発表等」につきましては、10月7日午後3時に、採用候補者の受験番号を県教委のホームページ等で公表するとともに、全受験者あてに結果を発送したところであります。「3今後の予定」につきましては、採用内定者に対しては、12月から1月までに、いしかわ師範塾による採用前研修を2日間にかけて実施することとしており、採用内定者が4月から自信と熱意を持って教師生活をスタートできるように取り組んで参ります。また、栄養教諭の合格者については、令和5年4月1日より学校栄養職員からの任用替えとなります。

【質疑】

質疑なし

報告第2号 教職員勤務時間調査の集計結果（上半期（令和4年4月～9月）分）について（岡橋教職員課長説明）

「調査の目的」についてですが、県教委では、平成29年度から勤務時間調査を実施し、平成30年度から県下で足並みを揃えて、多忙化改善に向けた取組を行っており、昨年8月の多忙化改善推進協議会において、令和2年度まで3年間の多忙化改善に向けた取組を一旦総括し、取組の成果は一定程度出ているものと考えているが、今後も取組を後退させることなく、不断の取組として継続することとしており、引き続き、時間外勤務時間を把握するものであります。なお、調査項目については、従前より簡素化をしてあります。「調査の概要」についてですが、ア調査期間は、令和4年4月1日から令和4年9月30日までの半年間であり、イ調査対象は、これまでの勤務時間調査と同じで、公立小中学校、県立学校、合わせて計333校のフルタイムで勤務する教職員8,148名で、調査対象の職種は、校長、副校長、教頭をはじめ、記載のとおりであります。

2ページをご覧ください。「1. 令和4年度上半期（4月～9月）分の集計結果」であります。この表は、時間外勤務時間の一人1か月あたりの平均と時間外勤務時間の人数分布を、小・中・高・特別支援の校種別に表したものであります。各校種の上段のカッコ書きは昨年度の令和3年度の4月から9月までの半年分のデータ、下段には令和4年度の4月から9月までの半年分のデータを記載しております。時間外勤務時間の一人1か月あたりの平均は、表の左から2列目に表記してありますが、今年度は、小学校、中学校においては令和3年度の同時期と比べて減少していますが、全日制高等学校においては、増加していることが見てとれます。下の「2.各年度上半期（4月～9月）分の経年比較」をご覧ください。時間外勤務時間の校種別月平均について、取組前の平成29年度から令和4年度までの5年間の比較ができるように、校種毎のデータを棒グラフで表したものであります。なお、令和2年度は、4月～5月の一斉臨時休校、7月～8月の夏休み中の授業の実施など、例年とは異なる状況がありましたので、経年比較からは除いています。令和3年度と比較すると、令和4年度は、小学校は、1.5時間の減、中学校は、1.6時間の減、全日制高等学校は、2.3時間の増となっております。

3ページをご覧ください。校種ごとに、時間外勤務時間の校種別人数分布を、45時間まで、45～60時間、60～80時間、80～100時間、100時間超の5つの区分に分けて、5年間について、その割合を表したグラフとなっております。こちらにも、令和2年度は除いています。時間外勤務時間が月80時間を超える教職員の割合は、丸で囲んであります2つの区分の割合を加えた値となっております。一番下の枠内に記載してあるように、令和3年度と比較すると、令和4年度は、小学校は、4.3%から4.0%へ、0.3ポイント減少、中学校は、19.5%から18.5%へ、1.0ポイント減少、全日制高等学校は、3.8%から5.3%へ、1.5ポイント増加しております。参考として、4ページから7ページにかけて月別推移が載せてありますので、ご覧下さい。以上、具体的な数字を申し上げましたが、昨年度と比べて小・中学校において減少、全日制高等学校において増加した要因について、いくつかの学校から聞き取りを行ったところ、小学校では、教材の共有化が浸透したことや、会議の精選が進んだこと、中学校では、夏休みに9月の業務を先取りするなど、業務の平準化を

行ったこと、中学校・高等学校では、昨年度は、コロナ感染症拡大防止の観点から、一定程度の部活動制限がありました。今年度は感染対策をしつつも、部活動を活発に行っており、大会前の練習試合や遠征等が増えたこと、文化祭などの学校行事も制限を緩和して実施していることがあるのではないかとのことでした。いずれにしても、コロナ感染症による影響が少ない令和元年度と比較すると確実に減少しており、小中高等学校いずれの校種においても、確実に教職員の意識・行動は変化してきており、業務の効率化を図りながら、できるだけ定時に帰宅しようとする人が増えてきていると考えられます。

なお、昨日、多忙化改善推進協議会を開催して取組の状況や、今般報告した時間外勤務時間の状況について情報を共有したところであり、委員からは、「1人1台端末の整備による会議や授業のペーパーレス化が進んだ」、「公務支援システムの導入によって仕事の効率化につながり、大変助かっている」、「採点ソフトも重宝している」、「多忙化改善の目標が目的化しないように、改めて初心に帰って取組を深掘りしていく」などの意見もありました。今後も勤務時間調査を継続し、一步一步着実に、多忙化改善に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

【質疑】

(眞鍋委員)

GIGA スクール構想によって、1人1台端末になったことで、先生方は対応のために時間外勤務時間が増えるのではないかと懸念していたのですが、そういったことは無かったということによろしいでしょうか。

(岡橋教職員課長)

数字を見る限りは、莫大な負担があったとは考えておりません。しかし、学校の意見を聞くと、特に導入の初年度については、いろいろと大変であるという声も聞いております。

(新屋委員)

高等学校の時間外勤務時間が若干増えていて、また、80時間を超える割合も若干増えていて、おそらく、部活動が正常化というか、コロナによる制限が少なくなってきたためではないかというお話でした。数年前に比べれば、良い状況だと思います。ただ、部活動が制約なく、どんどん出来るようになっていくと、以前のように歯止めなくやってしまうということが懸念されるケースもあるかもしれません。こういったことに気を付けていただければと思います。

(居村保健体育課長)

ご指摘いただいたことは大切だと思っております。制約が解除されたので元に戻すということではなく、県の取組方針に基づいて、休養日の設定の徹底など、今後もしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

(高野委員)

このデータは校種で出ていますが、職種は講師から校長まで幅広いデータだと思います。なかなか勤務時間を減らすことの難しい教頭先生なのですが、朝早く来て、最後まで残っていると思います。教頭先生の時間外勤務時間はどれくらいあって、過去と比較して減ってきているのでしょうか。

(岡橋教職員課長)

平成 30、31、令和 2 年度については、職種ごとの時間外勤務時間の内訳を調査していましたが、令和 3 年度からは簡略化しており、職種ごとの数字については現在手元にありません。ただし、過去のデータをみますと、管理職の教頭、部主事の時間外勤務時間が多く、大きな課題の一つとしてとらえていますので、またご提示したいと思います。

報告第3号 いしかわ産業教育フェア 2022 の概要について（北島学校指導課長説明）

目的については、産業教育を学ぶ高校生に誇りと自信を持たせ、その情報を発信する好機とするとともに、一般の方々や中学生等に産業教育の魅力を伝えることをねらいとしています。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止としたため、3年ぶりの開催となります。

では、資料中程の、「7フェアの概要」をご覧ください。今年度は、8：50からのオープニングセレモニーとして、金沢商業高校チアリーディング部がパフォーマンスを披露いたします。その後、9：00から開会式を行いまして、式が終了次第、企画内容にあります「ステージ・発表エリア」や「展示エリア」など6エリアに分かれて、発表、展示、コンテストなどを行い、閉会式は15：20となる見込みです。

次のページをご覧ください。産業展示館2号館の各エリアの配置は、ご覧のとおりです。次に7ページをご覧ください。エリアごとの主な企画内容を説明します。最初にステージ・発表エリアについて、2つ取り上げて説明します。1つ目は、「専門部会の研究成果発表」です。各専門分野で高校生が、研究・実践している内容をプレゼンテーションや実演によって紹介いたします。次に8ページをご覧ください。2つ目は「専門高校等における産学連携人材育成事業発表会」についてです。この事業は、地域貢献できる人材の育成を目指して、企業や大学等と連携・協力しながら、各高校のオリジナリティを大切にしたい取組を行うもので、今年度、指定を受けている11校が、これまでの活動の中間発表を行います。次に、サブステージです。新たな取組として、小中学生を対象としたドローン操縦体験を実施します。現在様々な分野で活用されているドローンの技術と活用の疑似体験を、専門家の協力を得て実施いたします。資料9ページをご覧ください。展示エリアです。特に、産学連携ブースや総合学科等ブースでは、先ほど説明した事業について、各学校の生徒自身が来場者に説明いたします。次に、体験エリアについてです。キッズビジネスタウンについては、小学生を対象に、例えば、水引の手作り体験やコンピュータを使った仕事など、いろんな職業を模擬的に体験できます。また、午後からは、新企画として小中学生がゲーム感覚でタイピングの正確さとスピードを競うタイピングコンテストを行います。次に、販売エリアについてです。より多くの商品を販売するため屋外スペースを設け、生徒が育てた農産物や、生徒が考案した商品を、実習も兼ねて生徒が販売いたします。次にコンテストエリアについてです。ここでは、専門高校9校の生徒が、プログラミング技術の正確さとスピードを競うコンテストを実施します。

フェア当日は、ただ今ご紹介しました企画を含め、多数の催しを計画しており、主役となる高校生はもちろん、子供から大人まで、幅広く楽しんでいただけるフェアにしていきたいと考えております。

【質疑】

（新家委員）

毎年やっておいでで、こういうものがあるというPRはどのような形でされるのでしょうか。

(北島学校指導課長)

まず、高校では、1年ぐらい前から、各学校の中で一生懸命PR活動できています。それから、一般の方々に対してですけれども、お手元にありますようなチラシを作りまして、公共施設等で提示させていただいています。今、我々がこだわっているのは、小学生、中学生に対して、どのようにアピールするかです。中学校に対しては、県内すべての中学校にこのチラシを配布しております。特に、白山市、野々市市、金沢市、津幡町の中学校には、直接、学校の先生が、チラシをもって行ってお願いしておりますし、小学校についても、白山市、野々市市、金沢市の小学校にはチラシを配布しております。また、ホームページも立ち上げております。

(新家委員)

後援に、石川県小中学校長会が入っていますので、校長先生を通じてよくやっておいでると思うのですが、目的に、中学生等に産業教育の魅力を伝えるということがありますので、親御さんも含めて、中学生へのPRの方法を、また来年等々に向けてご検討いただければ。

(新屋委員)

何年か前に、全国大会を石川県で開催していますが、全国大会の開催状況はどうなっているのでしょうか。

(北島学校指導課長)

平成28年に石川県で開催していますが、今年度も、担当県において開催されています。

(北野教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 23 号 令和 4 年度石川県優秀教職員の決定について

岡橋教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

報告第 4 号 令和 4 年度いしかわマスター教員の認定について

岡橋教職員課長が説明した。

議案第 24 号 教職員の人事について

岡橋教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。